

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	アウラ		
○保護者評価実施期間	R7年4月1日		R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R7年4月1日		R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児・重症心身障がい児への専門的な支援体制が整っている	看護師・理学療法士等の専門職を配置し、健康管理・リハビリ・日常支援を一体的に提供している	医療機関や訪問看護との連携を強化し、より安全で質の高い支援体制を構築する
2	一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援が充実している	個別支援計画に基づき、感覚遊び・運動・コミュニケーション支援など多角的にアプローチしている	定期的なモニタリングと職員間の情報共有を強化し、より個別性の高い支援につなげる
3	保護者との信頼関係が構築されており、安心して利用できる環境がある	連絡帳や送迎時の対話、面談を通じて丁寧な情報共有と相談支援を行っている	保護者ニーズに応じた助言や情報提供の機会を増やし、家庭との連携をさらに深める

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校や他機関との連携において情報共有が十分でない場合がある	学校・事業所間での連絡手段や機会が限られており、タイムリーな情報共有が難しい	定期的な担当者会議や情報共有の機会を設け、学校・関係機関との連携強化を図る
2	活動内容が一部固定化している傾向がある	安全面や個別対応を優先する中で、新たな活動導入の機会が少なくなっている	職員間での意見交換や研修を通じて活動の幅を広げ、児童の興味関心に応じた支援を充実させる
3	職員の支援スキルや知識にばらつきが見られる	経験年数や専門性の違いにより、支援の質に差が生じている	定期的な研修や事例検討を実施し、職員全体のスキル向上と支援の標準化を図る